



随時記者発表

項 目	日高管内における2023年の主な取組及び2024年に予想される主な動きについて		
区 分 等	発 表	月 日 時 分	説 明 者
	資料配付	12月26日14時00分	
配 付 資 料	■2023年を振り返って ■2024年に予想される主な動き		
発 表 要 旨	日高管内における 2023 年の主な取組及び 2024 年に予想される主な動きについて、別添資料のとおりとりまとめましたのでお知らせします。		
報 道 (取 材) に 当 た っ て の お 願 い			
担 当	北海道日高振興局地域創生部地域政策課 課 長 井 溪 雅 晴 (電 話 : 0 1 4 6 - 2 2 - 9 0 7 0) 地域振興課係長 広部 光彦 (電 話 : 0 1 4 6 - 2 2 - 9 0 7 7)		

～2023 年を振り返って～

■第 20 回統一地方選挙 [4 月]	地域政策課
<p>北海道知事及び北海道議会議員の任期満了に伴う選挙が、3 月 23 日及び 3 月 31 日にそれぞれ告示され、4 月 9 日に執行された。</p> <p>北海道知事選挙には 4 人が立候補し、4 月 9 日に投開票が行われた。</p> <p>北海道議会議員選挙（日高地域選挙区）については、2 人が立候補し、無投票となった。</p> <p>北海道知事選挙における日高管内の投票率は、57.28%（前回 66.61%）だった。</p> <p>また、平取町、新冠町、浦河町、様似町及びえりも町では、町議会議員の任期満了に伴う選挙が 4 月 18 日に告示され、4 月 23 日に執行された。</p>	

■日高地域公共交通計画の策定・推進 [6 月～]	地域政策課
<p>管内 7 町をはじめ、国や各団体で構成する「北海道日高地域公共交通活性協議会」を設立し、地域住民の生活を支える持続可能な地域公共交通の確保・維持のため、6 月に「日高地域公共交通計画」を策定。11 月には、本計画の施策の 1 つであるバス運転手不足の解消に向けて、地元産業・企業魅力発見フェアに出展し、高校生を対象としたバスの業務説明を行った。</p>	

■ナナイロひだかサポーターの活動 [6 月～11 月]	地域政策課
<p>人手不足の解消に寄与するため、令和 4 年度から振興局職員を「ナナイロひだかサポーター」に任命し、副業や SNS を活用した地域の魅力発信を実施。</p> <p>取組 2 年目となる今年度は、6 月に説明会を開催し、110 名の職員がサポーターに登録（前年比 45 名増）。36 名が副業活動に従事、16 名が SNS 等で地域の魅力を発信するなど、徐々に職員の間でも本取組が浸透してきている。</p> <p>11 月には、副業活動の普及・拡大をめざし、各町職員や地域おこし協力隊等を対象とした活動報告会を開催し、関係者間で副業活動の成果や今後の課題を共有した。</p>	

■アポイ岳ジオパークの世界ジオパーク再認定 [7 月～9 月]	地域政策課
<p>様似町のアポイ岳ジオパークが、国連教育科学文化機関（ユネスコ）から世界ジオパークとして再認定された。7 月 5 日から 8 日に行われた現地調査の結果、大きな問題点はないと判断されたが、審査員からは調査後の記者会見で「国外のジオパークとの交流強化」「町の補助金頼みからの脱却」などの指摘があった。</p> <p>北アフリカのモロッコで 9 月 4、5 日に開かれた会合で決定され、アポイ岳を含む町全域は 2015 年に認定後、今回が 3 回目の認定。</p>	

■牧場の仕事の魅力を伝える動画の制作 [8 月～]	地域政策課
<p>日高地域においては、近年、牧場の後継者不足が課題となっていることから、管内の牧場と連携し牧場に関わる仕事の魅力を発信する動画を制作中。令和 6 年 1 月完成予定。</p>	

■日高地域おこし協力隊ネットワークの創設 [9 月]	地域政策課
<p>6 月に「北海道地域おこし協力隊ネットワーク」が設立されたことに伴い、9 月に管内の現役及び OBOG 隊員で構成する「日高地域おこし協力隊ネットワーク」を設置。</p> <p>参加した隊員からは「他の協力隊の活動を知ることができ勉強になった」「今まで遠方の協力隊と会う機会がなく交流ができて良かった」などの意見が寄せられ、振興局としては、今後も隊員間の交流促進や任期満了後を見据えた環境づくりを進めていく。</p>	

～2023 年を振り返って～

<p>■Yogibo Versailles Stable(株)、(一社)ヴェルサイユリゾートファームとの包括連携協定の締結 [9月]</p>	<p>地域政策課</p>
<p>9月にYogibo Versailles Stable(株)と(一社)ヴェルサイユリゾートファーム、振興局の3者で包括連携協定を締結。 今後は、馬産地文化の保護・保全、ひだかの魅力発信、軽種馬産業の活性化などについて、連携・協働しながら馬産地ひだかの持続的発展に向けて取組を進めていく。</p>	

<p>■日高山脈襟裳国定公園魅力発信アドベンチャーの開催 [10月、11月]</p>	<p>地域政策課</p>
<p>日高山脈襟裳国定公園の魅力を発信するため、以下の日程でアクティビティ体験会を実施し、6日間合計で47名の応募があった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10月7日 様似町 アポイ岳登山 ※悪天候のため中止 ・10月14日 日高町 二つの滝へのハイキング ・10月21日 新ひだか町 秋の桜ボランティアと龍雲閣の見学会 ・10月28日 平取町 平取ダム散策とアイヌ文化 ・11月4日 新冠町 デイマシオ美術館芸術見学 ・11月11日 浦河町 浦河ダム監査廊ウォーキング 	

<p>■「ひだか馬の絵コンテスト」の開催 [11月]</p>	<p>地域政策課</p>
<p>日高地域の馬文化の普及啓発に向けて、平成16年度から「ひだか馬の絵コンテスト」を開催。20回目となる本年は、日高管内及び東胆振地域の小学校13校（日高管内：8校、胆振管内：5校）から計134点の応募があった。 11月に開催した審査会で選定した大賞、優秀賞、入賞の12作品は、2024年の「ひだか馬の絵カレンダー」に掲載するほか、日高・胆振管内の公共施設や商業施設での展示を行うなどして更なる馬文化の普及啓発を進める。</p>	

<p>■移住定住の取組 [11月、12月]</p>	<p>地域政策課</p>
<p>11月に管内7町と連携して「北海道“ひだか”オンライン移住カフェ～子育て編～」を開催。日高地域への移住に関心がある方21名の参加者に、各町の子育て制度や知って得する情報をオンラインで発信した。 また、12月には「北海道 mini 移住交流フェア 2023 in 横浜・大宮」に参加し、首都圏在住の方に各町の子育て制度や知って得する情報などを発信した。 本イベントは、日高振興局は初めての参加であったものの、道内への移住を希望する参加者のうち26名が日高地域に興味を示していた。</p>	

<p>■北海道地域防災マスターの認定 [9月]</p>	<p>危機対策室</p>
<p>9月30日に、日高地区における地域防災マスター認定研修会を浦河高校にて開催し、地域での防災活動のリーダーとなる地域防災マスターとして、新たに27名（うち高校生11名）を認定した。</p>	

～2023 年を振り返って～

<p>■令和5年度北海道防災総合訓練（前期）の実施【10月】</p>	<p>危機対策室</p>
<p>北海道地域防災計画に基づき、北海道、防災関係機関、関係市町村の共同により、大規模な地震・津波災害を想定として、日高振興局管内7町で災害時における応急対策活動能力の向上や災害対応力を強化することを目的として北海道防災総合訓練を実施。</p> <p>なお、訓練については、住民参加による高台等の避難場所への避難訓練や警察・消防等の実働部隊による救出救助訓練など各実動訓練が連携して実施。</p>	

<p>■様似町における大雨被害【10月】</p>	<p>危機対策室</p>
<p>10月5日に様似町付近において、局地的な激しい雨が降り続き、浦河町中杵臼の観測所では統計開始以来となる1時間75mmの記録を観測するなど記録的な大雨となった。</p> <p>この大雨により、様似町では土砂災害の発生及びこれに伴う国道336号線の通行止め、海辺川護岸の洗掘、住家浸水（うち8戸は床上浸水（半壊以上））等の甚大な被害が発生した。</p>	

<p>■新型コロナウイルス感染症対策【5月】</p>	<p>保健行政室</p>
<p>政府の新型コロナウイルス感染症対策本部の決定に基づき、5月8日より、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが5類に引き下げられた。5類移行後は、日高管内における感染拡大に備えた保健・医療提供体制について各医療機関と共有するとともに、高齢者施設等への支援、患者発生動向に基づく住民への注意喚起等を中心に対応した。</p>	

<p>■障がいへの理解促進に向けた出前講座の開催【10月、11月】</p>	<p>社会福祉課</p>
<p>障がいがある方も障がいがない方も共に生活できる共生社会の実現のため、「日高圏域障がい者が暮らしやすい地域づくり委員会」の取組の一つとして、地域の方々を対象に出前講座を開催。</p> <p>【手話出前講座】</p> <p>10月18日、聴覚障がい者に対する理解促進や手話の普及啓発を図ることを目的に、学生を対象とした手話出前講座を静内高校で開催。聴覚障がい者を講師に迎え、手話通訳者の協力を得ながら講義を行った。3名が受講。</p> <p>【障がい者（児）への理解促進に関する出前講座】</p> <p>11月17日、社会の障がいに対する理解を促進していくことや福祉業務への興味を持ってもらえるきっかけづくりを目的として、日高町内の社会福祉協議会の職員及び児童館の職員を対象に「発達障がいのグレーゾーンって何？」をテーマとした出前講座を門別ふれあいセンターで開催。13名が受講。</p>	

<p>■日高山脈襟裳国定公園の国立公園化【11月～】</p>	<p>環境生活課</p>
<p>環境省による日高山脈襟裳国定公園の国立公園化について、11月9日にパブリックコメントが実施され、公園計画書及び公園計画図の環境省原案が公開されるとともに、令和6年夏頃の指定とするスケジュールが示された。</p>	

～2023 年を振り返って～

■管内の農業生産状況〔4月～〕	農務課
<p>今年の日高管内の気象は、4月から10月にかけての積算温度は平年の115%、日照時間も平年の118%で高温多照。一方で降水量は平年の78%にとどまるという気象であったが、各作物とも概ね平年並みの作柄となった。</p> <p>水稲は、春先から好天が続き、7月上旬からは高温多照により生育が一層進んだことで生育は平年よりも早く進んだが、農作業は地区により断続的な降雨があり、収穫期間は平年に比べ長くかかった。作柄は北海道農政事務所の発表（12月12日現在）でやや良となっている。</p> <p>園芸作物は、高温の影響もあったが10月下旬現在の販売総額は、JAびらとりのトマトは35億円、JAひだか東のイチゴは3億円、JAしずないのミニトマトは8億円と概ね平年並となっている。またJAにいかっぶのピーマンは、前年を上回る12億円となっている。</p> <p>JAみついしの花きは、新型コロナウイルスによる消費の冷え込みから回復基調の中の高温の影響によりで切り花長が短くなる傾向もあったが、概ね平年並の6億円（9月下旬現在）となっている。</p>	

■ホッカイドウ競馬の発売額〔4月～11月〕	農務課
<p>令和5年度のホッカイドウ競馬は、4月19日から11月9日までの82日間で開催された。賞金・諸手当の充実による出走頭数やレース数の増加や公式YouTubeチャンネルを活用した競馬の魅力や2歳馬を中心とした坂路調教映像の情報発信などの取組が強化されたこともあり、発売額は512億円を記録。開催日数が3日間少なかったことから、発売額は前年を下回ったものの、1日当たりでの発売額は前年を上回り4年連続で500億円の大台が確保された。</p>	

■軽種馬北海道市場の売却総額〔5月～10月〕	農務課
<p>軽種馬のセリ市である北海道市場では、計5回13日間の市場が開催され、売却総額は過去最高の187億円となり、7年連続で100億円を突破。売却率もトータルで78.7%と、7年連続で70%台となった。</p>	

■JBC競走〔11月〕	農務課
<p>11月3日、JBC競走が門別競馬場と大井競馬場で同時開催された。門別競馬場でのJBC競走開催は4回目。開催当日は、門別競馬場における入場者数が2,606人を記録し、メインレースのJBC2歳優駿の売上は10億円超と1レース当たりの売上レコードを更新、一日の発売額は16億4789万円となった。また、JBC競走4レース中、Jpn I 3レース全ての優勝馬が日高管内の生産馬となり強い馬づくりの成果が現れた。</p>	

■米作り体験学習の開催〔5月～11月〕	農村振興課
<p>例年実施している「米作り体験学習」について、浦河東部小学校と荻伏小学校の小学5年生を対象に開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5月23日 田植え（参加者52名） ・7月18日 生長観察（参加者30名） ・9月20日 稲刈り（参加者52名） ・10月19日 粳すり・精米（参加者30名） ・11月22日 収穫祭（参加者29名） 	

～2023 年を振り返って～

<p>■管内の漁業生産～主要魚種の不漁や赤潮被害の長期化～</p>	<p>水産課</p>
<p>令和3年9月に発生した赤潮の影響により真ツブやタコの漁獲が未だ回復していない中、コンブ漁が平年並みに採取ができたものの、秋サケは記録的な不漁となるなど、管内水産業は非常に厳しい状況が続いている。</p>	

<p>■日高の豊かな海の幸フェスの開催 [3月～]</p>	<p>水産課</p>
<p>主要魚種の不漁など厳しい状況にある管内水産業を応援し地域を盛り上げる取組として、昨年に引き続き「日高の豊かな海の幸フェス」を開催した。</p> <p>第5弾 パン屋さん de こんぶフェス 日高昆布を使ったパンを管内3店舗のパン屋さんで販売</p> <p>第6弾 Hif-Tube 浜に関する「人」「旬」「味」「漁」などの情報を動画チャンネルで発信</p> <p>第7弾 日高の海の幸ランチフェア 2023 日高のブリとコンブを食材とした料理を三笠高校のレストランで提供</p> <p>第8弾 HiFA 2023～New year's select Hidaka お魚御膳～ 日高の水産物を使ったお正月料理の人気投票と料理投稿企画を実施</p>	

<p>■オオズワイガニの大量発生 [6月～]</p>	<p>水産課</p>
<p>日高東部沖でこれまで多く見られなかった「オオズワイガニ」が大量発生し、刺し網漁業へ影響を及ぼしたことから、6月に特別採捕の許可を行い、今後の資源動向を把握するとともに販路の開拓や加工原料としての可能性など資源の有効活用に向け、漁業関係者や試験研究機関とともに取り組んだ。</p>	

<p>■日高管内におけるブルーカーボンセミナーの開催 [7月]</p>	<p>水産課</p>
<p>「ブルーカーボン」の活用は、「ゼロカーボン北海道」の実現に向け、新たな二酸化炭素の吸収源として期待されており、道内有数のコンブの生産地である日高管内においても地域の特性を活かした水産業の振興と環境の調和を図りながら、検討を進めることが重要であることから、管内の「ブルーカーボン」の基礎知識の向上を図るため、研究機関の担当者を講師として7月にセミナーを開催した。</p> <p>・浦河町総合文化会館（参加者 56 名）</p>	

<p>■日高管内魅力発信ホームページの作成 (ひだか観光 NAVI のリニューアル) [4月]</p>	<p>商工労働観光課</p>
<p>日高管内の観光情報を発信するホームページについて、コロナ禍で変革した旅行者ニーズに合わせてリニューアルし、4月1日から運用を開始した。</p>	

<p>■「新規高等学校卒業生企業説明会」の開催 [6月]</p>	<p>商工労働観光課</p>
<p>企業活動や仕事に対する理解を深めるとともに、職業選択の視野を広げ地元就職の促進・定着を図るため、令和6年3月高等学校卒業予定の生徒を対象に、管内を中心とした企業による企業説明会を対面及びオンラインで開催。13企業等の出展と、日高管内の高校5校88名が参加した。</p>	

～2023 年を振り返って～

<p>■札幌圏での「ひだかフェア」の開催 [6月～10月]</p>	<p>商工労働観光課</p>
<p>日高製品の消費拡大と知名度向上および誘客促進を図るため、札幌圏において、道のアンテナショップ「北海道どさんこプラザ札幌店」（6月下旬から7月上旬）及び札幌市西区のスーパー「ラッキー山の手店」（10月）で「ひだかフェア」を開催。</p>	

<p>■国内外での観光プロモーション [10月、11月]</p>	<p>商工労働観光課</p>
<p>観光知名度向上及び誘客促進を図るため、大阪府で開催された旅行博（ツーリズム EXPO ジャパン 2023）（10月）をはじめとした道外でのプロモーション関連イベントや台湾で行われた旅行博（11月）等に参加し、メディア・旅行会社等にセールスコールを行い、旅行商品の造成やメディア露出につなげたほか、一般旅行者に対してひだか地域の魅力を PR した。</p>	

<p>■「地元産業・企業魅力発見フェア」の開催 [11月]</p>	<p>商工労働観光課</p>
<p>一般求職者及び高校生を対象に、地域の仕事や企業を広く知り、地元就業につなげ、地域経済を担う人材確保を目的として、対面とオンラインを併用したフェアを開催。13 企業等の出展と、日高管内の高校3校 118 名が参加した。</p>	

<p>■旅とグルメ「オールひだか いいものフェア」の開催 [11月]</p>	<p>商工労働観光課</p>
<p>日高自動車道「新冠 IC(仮称)」開通に向け、札幌圏からより近くなるひだか地域の魅力を PR し、誘客促進を図るため、町、民間団体、日高振興局が参画する優駿日高道!!オールひだか魅力発信協議会として、札幌地下歩行空間で観光物産展を開催。来場者は約 9,220 人（2日間合計）</p>	

<p>■「胆振・日高 食のオンライン商談会」の開催 [12月]</p>	<p>商工労働観光課</p>
<p>胆振・日高管内の産品に関心を示しているバイヤー等を対象にオンライン商談会を実施。ノウハウを取得できるよう事前リハーサルを実施し、オンライン商談会初心者でも参加しやすいような内容で事業者を支援した。</p>	

<p>■HOKKAIDO WOOD BUILDING の登録 [2月、8月]</p>	<p>林務課</p>
<p>道産木材を使用した建築物を登録し、施設内に木製の登録証を掲示することなどを通じ、道民に道産木材製品の魅力を広く発信し、認知度の向上を図るとともに、建築物の木造化、木質化を推進することで道産木材の利用拡大に資することを目的に「HOKKAIDO WOOD BUILDING」の登録を推進。管内で2件の施設が登録された。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2月 28 日登録：イオル文化交流センター（平取町） ・ 8月 1 日登録：無印良品コープさっぽろしずない（新ひだか町） 	

<p>■大雨により発生した林地及び林道施設被害の復旧 [10月～]</p>	<p>林務課</p>
<p>10月の大雨により、林地及び林道施設被害が発生。被災箇所の復旧のため、国の事業を活用し、災害の調査、復旧工事に着手した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 林地被害：24 箇所 701,700 千円（様似町） ・ 林道施設被害：3 路線 23 箇所 92,133 千円（浦河町・様似町） 	

～2023 年を振り返って～

<p>■クリスマスツリーの設置 [12 月]</p>	<p>林務課</p>
<p>地域の子どもたちが木々とふれあい、森林づくりや木育の取組を身近に感じてもらうことを目的に、12 月 13 日～22 日、振興局 1 階エントランスホールに、新冠町産道有林トドマツのクリスマスツリーを設置。</p> <p>初日には、ツリーの点灯式を開催し、夢の国幼稚園・保育園と浦河フレンド森のようちえんから年長組 58 名が参加。園児たちは用意したアオダモのコースターをツリーに飾り付け、サンタクロースに扮した生田局長から、道産木材を使った積み木がプレゼントされた。</p>	

<p>■日高管内林業グループ連絡協議会 60 周年 日高管内指導林家連絡協議会 20 周年 [1 月]</p>	<p>森林室</p>
<p>日高管内林業グループ連絡協議会 60 周年、日高管内指導林家連絡協議会 20 周年を祝い記念誌を作成するとともに、日高振興局へ記念品が贈呈された。記念品（テーブル、椅子）は振興局玄関ホールに展示された。</p>	

<p>■ICT による広葉樹資源の把握 [11 月～]</p>	<p>森林室</p>
<p>森林資源の効率的かつ高精度な把握技術や広葉樹伐採の選木方法等の開発を目的として、UAV により浦河町道有林 9ha のレーザ計測を実施した。</p> <p>道有林基本計画の基本方針の一つである「資源や技術力を活用した地域貢献」について、広葉樹資源の持続可能な利用が期待され、ICT を活用した効率的な資源量把握の手法の確立と地域への普及を目指した取組を日高管内の道有林においても開始した。</p>	

<p>■輸出専用食肉処理場の新設 [4 月]</p>	<p>日高食肉衛生検査所</p>
<p>管内唯一のと畜場である（株）日高食肉センターにおいて、食肉の輸出増加に対応するため、最新設備を有する輸出専用の食肉処理場が 4 月 18 日に竣工し、7 月より稼働開始。1 日当たりの処理可能頭数が 1,100 頭から 1,300 頭に増加された。</p> <p>【輸出先国】 香港、マカオ、ベトナム、シンガポール、タイの 5ヶ国</p> <p>【年次別輸出量】 平成 30 年 358.8 t、令和元年 419.1 t、令和 2 年 832.2 t、令和 3 年 931.7 t、 令和 4 年 797.6 t、令和 5 年 654 t（令和 5 年 11 月現在）</p>	

<p>■公立高等学校配置計画地域別検討協議会の開催 [4 月、7 月]</p>	<p>日高教育局</p>
<p>令和 6 年度から令和 8 年度における本道の公立高等学校配置計画の策定に向け、日高管内の町、学校関係者や経済団体関係者がオンラインで参加する協議会を開催。中学卒業生の進路動向や地元の高校との連携状況、地域と一体となって学校の魅力化を進める平取高校の取組紹介など、情報提供や意見交換が行われた。</p> <p>【第 1 回】 4 月 28 日（金）（参加者 36 名） 【第 2 回】 7 月 18 日（火）（参加者 38 名）</p>	

～2023 年を振り返って～

<p>■令和5年度「絆づくりメッセージコンクール～いじめやネットトラブルの根絶を目指して～」の開催【6月～11月】</p>	<p>日高教育局</p>
<p>いじめやネットトラブルの根絶を目指し、思いやりをもって人と接する社会の実現に向けた意識の向上を図ることを目的としたコンクールを開催。</p> <p>管内の児童生徒から約 600 点の応募があり、浦河高等学校（風紀委員会選出）の作品「被害者は一生 加害者は一瞬」がことば・メッセージ部門で管内最優秀賞に選出され、全道でも優秀賞を受賞した。</p>	

<p>■令和5年度エビデンスに基づく資質・能力育成事業（E B E 協議会）の開催【6月、10月】</p>	<p>日高教育局</p>
<p>小・中・高の 12 年間を一体的に捉えた児童生徒の学力・学習状況等の分析結果を踏まえ、組織的な授業改善などにより子どもたちに必要な資質・能力を育成することを目的としたオンライン協議会を開催。管内の校長、教員など、延べ約 120 名が参加した。道教委の取組に基づき令和5年度から開始した協議会であり、管内各学校では、本協議会の成果を踏まえ、学力向上等に向けた取組を実施している。－＋</p> <p>【第1回】6月26日（月）（参加者 60 名）</p> <p>【第2回】10月2日（月）（参加者 61 名）</p>	

<p>■北海道静内農業高等学校生産馬の売却【8月】</p>	<p>日高教育局</p>
<p>8月21日、日高軽種馬農業協同組合北海道市場で行われたサマーセールに北海道静内農業高等学校生産馬「ナリタトップスター2022」が上場され、200 万円で落札された。</p>	

<p>■管内の新規有形文化財の登録【8月】</p>	<p>日高教育局</p>
<p>文化財保護法の規定に基づく有形文化財として、「レースホース牧場（旧大日本競走馬生産）本厩舎」（新ひだか町三石歌笛 3 7 9）が登録された。</p> <p>本施設は、北海道の競走馬生産発展期の典型的な厩舎建築で、馬産地の歴史的景観を形成するといった特徴を有しており、国の有形文化財としては管内で 5 番目の登録。</p>	

<p>■管内小・中学校における女性活躍の推進【9月】</p>	<p>日高教育局</p>
<p>9月4日（月）、新冠町レ・コード館において、道教委の青山委員を講師に招き、日高管内女性教員ミドルリーダー研修会を開催。管内の各種公立学校から女性教職員 13 人と女性管理職員 14 人が参加し、研修を深めた。（日高管内の女性管理職率は全道トップの 17.9%（令和5年4月1日現在））</p>	

<p>■令和5年度全国学力・学習状況調査の管内結果【11月】</p>	<p>日高教育局</p>
<p>小学6年生及び中学3年生を対象に毎年実施される全国学力・学習状況調査において、日高管内は全国平均に届かない状況が続いているものの、令和5年度は、小学校の国語、算数及び中学校の数学で全国平均との差が縮まった。</p> <p>このほか、「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて分かるまで教えてくれていると思う」と答えた児童生徒の割合が全国及び全道を上回るなどの成果も見られた。</p>	

～2024年に予想される主な動き～

<p>■ナナイロひだか高校生応援プロジェクトの始動 [1月～]</p>	<p>地域政策課</p>
<p>郷土愛を育み、進学で日高を離れてもまた町に戻り活躍できる人材の育成・環流を目指し、今年度から「ナナイロひだか高校生応援プロジェクト」を始動。 第1弾は静内高校生を対象に、日高山脈襟裳国定公園の国立公園化を見据えた誘客戦略をテーマとしてワークショップを複数回開催し、高校生が考えたアイデアをできる限り道の施策に取り入れていく予定。</p>	

<p>■日高管内の町長選挙 [7月]</p>	<p>地域政策課</p>
<p>平取町長の任期が7月2日で満了することに伴い、任期満了日前30日以内に町長選挙が執行される。</p>	

<p>■日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震に係る研修事業 [2月]</p>	<p>危機対策室</p>
<p>「日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震」発生時に対する避難意識向上を目的として、地域住民に対し地震のメカニズムや被害想定等の理解促進となる研修会を実施。</p>	

<p>■（室蘭建設管理部）トマチャナイ川砂防事業の完成 [3月]</p>	<p>危機対策室</p>
<p>トマチャナイ川は、二級河川新冠川に合流する普通河川で、平成18年8月の豪雨出水により新冠町道が被災したほか、河道内に不安定土砂が堆積した。次期出水で下流域に土砂流出が懸念されることから、平成22年より砂防事業に着手。人家、消防署、避難所、駐在所、町道、農地を土砂災害から守るため、砂防堰堤工、床固工及び渓流保全工の整備を行い、14年を経て3月に完成予定。</p>	

<p>■北海道医療計画（地域推進方針）等の策定 [9月]</p>	<p>保健行政室</p>
<p>医療法第30条の4に基づき、6年ごとに北海道の医療提供体制の確保を図るための計画として、令和6年を始期とする北海道医療計画が策定されることを受け、第二次医療圏ごとに策定している「北海道医療計画〔地域推進方針〕」について、9月末を目途に策定予定。 また、北海道健康増進計画も同様に、第二次医療圏ごとに策定している日高圏域健康づくり事業行動計画を9月末を目途に策定予定。</p>	

<p>■障がいへの理解促進に向けた出前講座の開催 [1月]</p>	<p>社会福祉課</p>
<p>令和5年に引き続き、障がいがある方も障がいがない方も共に生活できる共生社会の実現のため、「日高圏域障がい者が暮らしやすい地域づくり委員会」の取組の一つとして、地域の方々を対象に開催する予定。 【手話出前講座】 聴覚障がい者に対する理解促進や手話の普及啓発を図ることを目的に、学生を対象とした手話出前講座を1月19日に浦河高校（約100名）、1月25日に浦河赤十字看護専門学校（約10名）で開催予定。聴覚障がい者を講師に迎え、手話通訳者の協力を得ながら講義を行う。 【障がい者（児）への理解促進に関する出前講座】 社会の障がいに対する理解を促進していくことや福祉業務への興味を持ってもらえるきっかけづくりを目的に出前講座を開催予定。</p>	

～2024年に予想される主な動き～

<p>■日高山脈襟裳国定公園の国立公園化〔時期未定〕</p>	<p>環境生活課</p>
<p>環境省による日高山脈襟裳国定公園の国立公園化に係る手続きが進められている。環境省のスケジュールでは、本年春頃の中央環境審議会を経て、夏頃に指定される見込み。</p>	
<p>■JBC 競走〔11月〕</p>	<p>農務課</p>
<p>JBC 競走の2024開催は、門別競馬場と佐賀競馬場との同時開催を予定。2023開催の大井競馬場との同時開催と同様、日高管内の生産馬の活躍が期待される。</p>	
<p>■米作り体験学習の開催〔5月～11月〕</p>	<p>農村振興課</p>
<p>土地改良区が農業の理解促進を図るため、子どもを対象に実施している「米作り体験学習」について、今年度も振興局としての支援活動を継続する予定。</p>	
<p>■新規高等学校卒業者企業説明会の開催〔6月〕</p>	<p>商工労働観光課</p>
<p>令和7年3月の高等学校卒業者を対象に、生徒と企業の相互理解を深める事を目的として、ハローク浦河及び日高教育局との共催により企業説明会を開催する。</p>	
<p>■「地元産業・企業魅力発見フェア」の開催〔11月〕</p>	<p>商工労働観光課</p>
<p>一般求職者及び高校生等を対象に、地域の仕事や企業を広く知り、地元就業につなげ、地域経済を担う人材確保を目的として、フェアを開催する。</p>	
<p>■日高自動車道利用促進に係るプロモーション〔時期未定〕</p>	<p>商工労働観光課</p>
<p>日高自動車道「新冠 IC(仮称)」開通に向け、札幌圏からより近くなるひだか地域の魅力をPRし、誘客促進を図るため、町、民間団体、日高振興局が参画する優駿日高道！！オールひだか魅力発信協議会による、札幌圏での日高自動車道利用促進PRイベント開催などのプロモーション活動を行う。</p>	
<p>■札幌圏での「ひだかフェア」の開催〔時期未定〕</p>	<p>商工労働観光課</p>
<p>日高管内の「食」の魅力を発信するため、札幌圏で物産展を開催。札幌圏の消費者及び観光客に「ひだか産品」のPRを行う。</p>	
<p>■札幌圏での「グルメフェア」の開催〔時期未定〕</p>	<p>商工労働観光課</p>
<p>ひだか産品の消費拡大を図るため札幌圏のホテルで「グルメフェア」を開催。グルメフェアで提供されたレシピをSNSで公開し、消費喚起とブランドの向上を図る。</p>	
<p>■食肉の輸出量増加〔時期未定〕</p>	<p>日高食肉衛生検査所</p>
<p>令和5年に新設された輸出専用食肉処理施設の稼働により、と畜場における1日当たりの処理可能頭数が昨年より200頭増えることから、輸出量の更なる増加が見込まれる。</p>	

～2024年に予想される主な動き～

<p>■S-TEAM 教育推進事業令和5年度 「探究チャレンジ胆振・日高」の開催【1月】</p>	<p>日高教育局</p>
<p>日高管内及び胆振管内の道立高校生を対象に、探究活動の成果を新たな探究に結び付け、生涯にわたって能動的に学び続ける資質・能力を育成することを目的とした発表会を、1月10日にオンラインで開催予定。</p> <p>上位2校は、日高管内及び胆振管内の代表として「探究チャレンジ・ジャパン」（全道成果発表会）へ派遣される。</p>	
<p>■令和6年度全国学力・学習状況調査の実施【4月】</p>	<p>日高教育局</p>
<p>小学6年生及び中学3年生を対象に毎年実施される全国学力・学習状況調査について、令和6年度は、4月18日に国語・算数（数学）の2教科で実施の予定。なお、中学校の生徒質問調査については、令和6年度からCBTが全面的に導入され、生徒はコンピュータ上で回答する。</p>	
<p>■公立高等学校の適正配置と魅力化【4月、7月】</p>	<p>日高教育局</p>
<p>令和7年度から令和9年度における本道の公立高等学校配置計画の策定に向け、日高管内の町、学校関係者や経済団体関係者を対象に協議会を開催予定。</p> <p>町や地域と一体となって学校の魅力化を進めている平取高校では、令和6年度から、アイヌ文化の学習を教育課程に位置付けるなど、魅力化の取組を促進するとともに、道外からの入学生の募集を開始する。</p>	